

福島石復活へ 固く結束

国内有数の石材産地として知られる福島県の採石・加工業の再生を目指す「ふくしまの石プロジェクト」が始動した。県内の採石業者5社が墓石の共同販売などを手掛ける新会社を設立し、関東の石材小売店と連携す

る態勢を構築した。東京電力福島第1原発事故の影響で失われた販路の回復を図り、産業復興につなげる。

福島県の阿武隈山地は墓石に使われる花こう岩、はんれい岩など多様な石が採れ、1990年代

地元業者5社、新会社を設立

初頭は国内で販売される石材の約4割を占める一大産地だった。その後、価格の安い中国産が台頭し生産量が減少し、原発事故の風評被害が追い打ちをかけた。出荷量はピーク時から9割以上も減り、国内シェアも数%以下に落ち込んだ。

ただ最近、中国産の価格高騰もあり、品質の良い国産石材の評価が再び高まっている。こうした状況を反転攻勢に生かそうと、郡山、田村両市と小野町の採石業者5社がことし1月、日本銘石(田村市)を設立した。

受注窓口を一本化し、石の種類によって複数業者と取引していた石材小売店側の発注業務を簡素化した。販売面では、さいたま市の霊園に福島産のモデル

墓石を展示し、実際に石を見てもらう試みを開始。製品に産地や加工場の証明書を添える取り組みも始めた。

日本銘石の佐藤利男社長は「つやのあせにくい福島産石材の品質の良さと、加工技術の高さをPRしたい」と意気込む。

4月、取引のある関東地方の石材小売業者の営業スタッフを県内に招き、福島産の特徴を知ってもらう研修をスタート。約10人が加工場や採石場を視察した。

埼玉県の業者は「国産石材を扱う機会はなく、情報も少ない。研修で知識を得られるのはありがたい」と歓迎。同県の別の業者は「高級石材を求める客に福島産を紹介したい」と話した。

研修には今後、数十の石材小売店が参加を予定する。日本銘石は消費者を招いた見学会の開催も検討中だ。

関東の小売店と連携 品質PR

研修に参加し、石材の加工場を視察する関東地方の石材小売店のスタッフら＝田村市



ニュース Q&A

神奈川県箱根山で、火山性地震が増えるなど活動が活発になったため、気象庁が噴火警戒レベルを引き上げました。

Q 噴火警戒レベルとは何ですか。

A 住民ら火山の近くにいて、噴火による被害を警戒する範囲や危険度を知らせ、どのような

噴火警戒レベル

行動を取るべき目安を示したものです。

Q どのような種類があるので

A 最も低い警戒レベル1の「平常」から、最も高い警戒レベル5の「避難」まで5段階です。

箱根山は6日に1から2の「火口周辺規制」に引き上げられました。火山ごとの警戒レベルは、気象庁が決めています。

Q 警戒レベルが運用されている火山はどれくらいあるのですか。

A 日本には噴火の恐れがある活火山が110あります。このうち24時間態勢の常時観測をしている47火山の中で、地元自治体と警戒範囲などについて協議が終わ

有感地震相次ぐ 火山活動が活発

箱根山

噴火警戒レベルが2(火口周辺規制)に引き上げられている箱根山(神奈川県箱根町)は10日、火山性地震が依然として多く、火山活動が活発な状態だ。午後

6時7分ごろ、度2の地震が、体に感

気象庁によると、26日以降で震源の深

噴火警戒レベル 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

名物に列舌も魅了